

中学校におけるインフォメーションリテラシー育成のための探究的な学習の実践と評価：情報収集過程の検討

Implementation And Evaluation of Inquiry-based learning to Promote Information Literacy in the Middle School: An Examination of the Process of Information Gathering

学籍番号：201921646

氏名：松島 愛美

Matsushima Megumi

探究的な学習では、学習理解を深めるためのインフォメーションリテラシー（情報が必要である時を認識でき、必要な情報の所在を知る能力をもち、必要とした情報を評価し、効果的に利用できる能力）の育成が期待されている。探究的な学習の指導上の課題としては、指導書に示されない指導方法が情報収集過程に集中していること、中学生が情報検索時の主な情報源がインターネットに偏っていることなどがこれまで指摘されている。しかし学習成果を高めるための生徒と教員の具体的な行動や、情報収集過程における具体的な指導方法、中学生の詳細な情報収集行動は明らかになっていない。

そこで本研究では、中学校における探究的な学習の学習成果の高い学習者とそうでない学習者の情報収集過程での行動の違いを比較することにより、学習成果を高めるための生徒の情報収集過程の行動と教員からの働きかけを明らかにすることを目的とする。

探究的な学習の実践は、中学3年生17名と教員2名を対象に、課題解決のための情報収集過程にあたる期間の全7回の授業において行った。情報収集過程の生徒と教員の行動を、情報探索行動記録シート・リフレクションシート・画面録画データ・調べた内容をまとめたスライド・教員の指導・観察記録シートによって記録し、回収した。

紙・電子メディア両方の資料を用いたグループ2つ（7名）を対象に、スライド評価の得点の基準で探究的な学習の成果が高かった生徒とそうでない生徒にグループ化し、学習過程モデルの「資料を集める」・「情報を探す」・「情報を評価する」行動について指導項目に基づいた生徒の情報収集過程の行動の違いと教員による働きかけの関係を分析した。

分析の結果、学習成果が高いグループのみ、次のような行動が見られた。第1に、「資料を集める」行動では、目的に応じたメディアを選択し、「調べるための柱」に該当する資料を閲覧・参考にしていた。第2に、「情報を探す」行動では、白書を使って調べる・検索に適したキーワードを作る・図書を積極的に利用していた。第3に、「情報を評価する」行動では、情報源の特性や内容で評価する・情報提供された時期や日付を見ていた。したがって、これらの点が学習成果につながることを示唆された。本研究では、今後は、教員がこれらの点を指導し、生徒の学習効果が実際に高まるのかなどについても検討していく必要がある。

主研究指導教員： 鈴木 佳苗

副研究指導教員： 呑海 沙織